

番組制作時に生じた問題の再発防止策について

先般、週刊誌記事で取り上げられた、WOWOW 連続ドラマ W「東京すみっこごはん」番組制作時に発生した問題により、視聴者の皆様をはじめ、関係者の皆様の信頼を損ない、また多大なご迷惑、ご心配をおかけしましたことを、心から深くお詫び申し上げます。

今回生じた事態を教訓として、問題の再発防止のための施策に加え、コンプライアンスの強化策を策定いたしました。以下に概要をご報告いたします。

1.「東京すみっこごはん」番組制作時に生じた問題の事実確認

今回の再発防止策を策定するにあたり、生じた問題の事実を明らかにし、その発生原因を究明すべく、改めて関係者に事実関係の確認を行った。

1) 生じた問題の内容

調査の結果、連続ドラマ W「東京すみっこごはん」の制作にあたり、待機時間や仮眠時間が含まれているものの2017年1月20日(金)正午～翌日午前2時、同月21日(土)正午～翌日午前5時までという深夜を含めた長時間、子役俳優を拘束する形で撮影が行われたこと、20日(金)撮影時には制作会社である株式会社ロボットのプロデューサーが、21日(土)の撮影時にはWOWOWプロデューサー及び制作会社プロデューサーが現場で立ち会っていたことを改めて確認した。

本来、適正な形でのドラマ制作を管理する立場であるWOWOWプロデューサー及び制作会社プロデューサーが立ち会っている中で、児童の健康や福祉等の観点から問題のある午後8時を超え深夜におよぶ子役俳優の撮影が看過されていたことがわかった。

また、週刊誌記事に記載されていた、深夜3時を過ぎて監督が子役俳優のシーンを4、50回撮り直した事実及び撮り直しにより子役俳優が号泣したという事実はなかったことを確認した。

2) 事実の概要

① 本件番組撮影開始前後の関係者のやり取り及び撮影スケジュールの遅延

ドラマ制作においては、制作過程において作品の質のほか、予算や納期の順守が課題となる。本件では、撮影開始前の打ち合わせ段階から課題が認識されていたものの、撮影開始前は、WOWOW及び制作会社プロデューサーは、予定通りに撮影スケジュールを終えることができると考えていた。実際に撮影が始まり、ロケーション撮影は比較的順調に進んだが、2017年1月19日にセット撮影が始まってから進行に著しい遅れが生じ始め、21日まで遅れが生じた。このような撮影状況につき、WOWOWプロデューサーは制作会社プロデューサーから、随時、報告を受けていた。

② 2017年1月20日及び21日の経緯

撮影前に配布された「東京すみっこごはん撮影予定表」では、両日共、深夜撮影が予定されていたわけではなく、子役俳優については午後8時に撮影現場を引き揚げさせることが明記されていた。しかし、両日のスタジオセットの撮影において、すべての準備や撮影に予定以上の時間を要し、大幅に撮影スケジュールが遅延した。

WOWOW 及び制作会社のプロデューサーは、撮影スケジュールの大幅な遅延や、出演者のスケジュールの都合に加え、予算や当初のオンエア想定の問題などから、「子役俳優が午後8時までしか撮影できないこと」を認識しつつも、この両日中に子役俳優の撮影シーンを撮りきらなければならないという思考に陥ってしまった。結果、撮影は深夜に及んだ。

③ その他の事実

上記の他、WOWOW プロデューサーから上げられたドラマ企画の承認プロセスにおいて、コンプライアンスの観点での確認が不足していたこと、撮影の進捗状況や撮影中に生じた問題について会社への報告体制が整えられていなかったこと、番組制作全スタッフと番組制作上のコンプライアンスの観点を共有する工夫が不足していたこと、問題を認識した者が相談できる日常的な窓口が存在していなかったこと、本件に限らず、番組制作のプロセスの適切性を事後検証していなかったこと、などの事実が確認された。

2. 本件問題発生原因の総括

- ・ 本件問題発生 of 直接的な原因は、WOWOW、制作会社、監督も含めた現場の者が一体となって、2017年1月20日及び21日の両日中に子役俳優の撮影シーンを撮り切らなければならないという思考に陥ってしまったことにある。しかし、両日の撮影スケジュールの遅延は、本件番組撮影開始時点頃からの“適切な判断と対応の欠如”の累積の結果生じたものであって、これは撮影スケジュールのいずれかの段階にのみあったのではなく、撮影スケジュール全般に存在した。
- ・ 撮影スケジュール全般においてプロデューサーの“適切な判断と対応の欠如”が生じた原因は、ア) 撮影現場に関わる者として子役俳優の保護育成や健康等への配慮不足と、これらを蔑ろにした場合の社会的責任の重大さについての理解不足、イ) “作品の質の追求”と“予算や納期のコントロール”という相克問題の掘り下げと具体的対策の未整備にあったと考えられる。
- ・ 深夜におよぶ長時間撮影は、子役俳優のみならず成人の健康にも影響を及ぼす。昨今、過重労働の問題等、職場環境を巡る様々な問題が社会において取り上げられている中、WOWOW プロデューサーら関係者には、子役俳優の深夜撮影の禁止を含め撮影現場における安全やコンプライアンスを最優先する意識が欠落していたことも、本件問題発生の一因と考えられる。
- ・ また、本件ドラマ制作に関して、WOWOW と契約関係があったのは制作会社と監督の二者であるが、その契約関係および内容において、ドラマ制作過程で生じるリスクや問題に対する責任の所在が曖昧であったことが本件問題発生 of 背景要因として挙げられる。

3.再発防止策の概要

お客様に支持され満足していただける番組を継続して提供していくために企画、制作、編成、放送などの全てのプロセスにおいて、コンプライアンス違反や倫理違反が生じないように、以下の再発防止策を実施し、有料放送局としての社会的責務を果たす。

1) 厳守項目

① 安全確保

撮影現場以外の場所も含め、あらゆる現場において「安全第一」を守る。

② 過重労働の防止

長時間撮影が続くことのないよう、労働環境への配慮を心がける。

③ 児童の出演について

15歳以下の「子役」については、出演時間を午前5時～午後8時までとし、精神的にも圧迫や不安を与えないよう十分配慮する。

2) 管理・教育体制の改善・強化

① 「番組制作ガイドライン」の策定と共有

「考査ハンドブック」の一部であった制作ガイドラインを改訂し、新たに「WOWOW 番組制作ガイドライン」として分冊化するとともに、子役俳優の出演可能時間および過重労働防止に関する最低限順守すべき基準など番組制作上のルールを明確化する。

また、「WOWOW 番組制作ガイドライン」をベースに、社外の番組関係者にも、番組制作に対するWOWOWの考え方を共有する。

② 教育体制の構築

社内教育体制の強化。関連各部が連携し、社員個々に、社会的責任と公共的使命を自覚させ、いかなる場面においても、倫理違反防止、法令、社会常識や規範の順守に徹する意識を持たせることを目的とした教育体制を構築する。

※社内教育体制について

「WOWOW 番組制作ガイドライン」をベースとし、教育項目を、(1)放送倫理、(2)契約に関する考え方、社内相談窓口の啓蒙、(3)コンプライアンス関連の3つに分けたうえで、該当局の社員に向けては全て、その他部門の社員に向けては上記(3)について、いずれも年1回、参加必須の講習会を行う。

③ 相談窓口の設置

社内外の番組制作関係者が利用できる相談窓口を設置する。電話番号とメールアドレスは番組制作関係者に広く共有し、番組制作過程で生じるリスクや問題について日常的に把握し、対応する。

④ 番組企画決定時のコンプライアンス視点でのチェック

関連各部が連携して、本件問題を含め人権や法令で注意すべき事案についての過去事例や相談窓口への

問い合わせ内容などを分析し、番組企画決定時のチェックにおいて、労働環境や児童福祉、コンプライアンス視点の項目を追加する。企画内容、番組制作スケジュールの確認と承認を実施する。

⑤ 番組制作時における契約関係及び契約内容の見直し

契約関係の整理及び契約内容の見直し、並びに番組制作過程で生じるリスクや問題に対する責任所在を明確にする。

⑥ リスク発生時の即時報告の徹底

管理・報告・責任体制の明確化、並びに、リスク発生時の上長への即時報告を徹底する。

4.まとめ

本件のような問題の再発防止を図るとともに、番組制作におけるコンプライアンスの徹底という大きな課題に取り組むために、WOWOW 社内各所及び社外有識者により、様々な角度から検討を重ねた結果、本書に概要を示した再発防止策と実施計画を策定した。

また、番組制作に関わる多くの者が、本対策策定にかかわったことで、再発防止及びコンプライアンスの徹底に一丸となって取り組む決意を新たにした。

今回のような事態の発生および本対策を経て、以下 5 に番組制作の指針となる「WOWOW 制作方針」を掲げる。

5.WOWOW 制作方針

WOWOW は、メディアとしての社会的責任と公共的使命を認識し、文化の普及と向上に努め、より良い社会環境、公共の福祉に貢献することを目的とする。

また我々は、「放送法」によって、言論・表現の自由を保障されていると同時に、“自律的に放送番組の適正を図る責務”を負っている。

WOWOW が放送する番組は、社会の公序良俗に従った良識的な内容であるとともに、その制作活動も、コンプライアンスの観点から、諸法令に従うとともに、その趣旨に則ったものでなければならない。WOWOW は、クリエイターとの協業のもと、番組制作に関わるすべての者の安全を最優先するほか、特に社会的弱者への配慮と青少年の保護育成を最大限に考慮しなければならない。制作過程において、コンプライアンスを最優先しつつ、視聴者の方々に健全な楽しみを提供して生活を豊かにする、上質な番組を届ける使命を持って、日々放送していかねばならない。

番組制作にあたっては、「日本民間放送連盟・放送基準」に準拠することを基本方針とする。

また、WOWOW の放送に関わる全ての者は、番組制作上の判断指標として、「WOWOW 番組制作ガイドライン」を順守するものとする。

メディアを取り巻く環境が大きく変化する中、エンターテインメントに対する期待はより大きく、WOWOW はエンターテインメントを送り出すメディアとして、低きに流れることなく、常に高きを目指し、誇りを持って、前進したい。

以上